

# 静岡県東部地域企業経営動向調査

(2014年1-3月期実績、2014年4-6月期見通し)

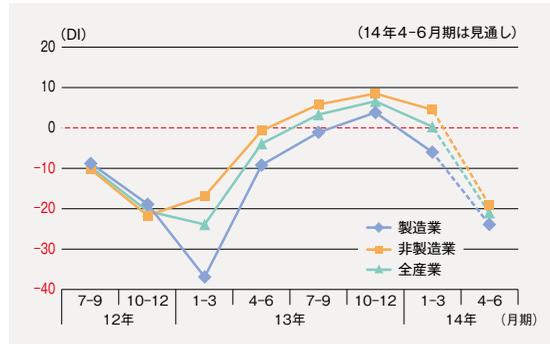
## 1 業況概要(自社)

今期DIは低下に転じ、予想DIはさらに低下

静岡県東部地域における2014年1-3月期の業況判断DI(対前期比)は全産業で0.4(前期6.7)となり、前期までの上昇傾向から下降に転じた。うち、製造業では食料品やパルプ・紙・紙加工品でDIの低下が目立ち、全体でも-5.9(同3.9)と再びマイナス水準に低下した。一方、非製造業では、建設業は横ばいとなったものの、旅館・その他宿泊所で下降に転じ、全体で4.6(同8.6)と製造業同様低下している。

2014年4-6月期の予想DIは、全産業で-20.9、うち製造業で-23.8、非製造業で-19.0といずれも今期比さらに低下しており、消費税増税に伴う需要の反動減

の影響が懸念されている。



### 業種別天気図



(2013年10-12月、2014年1-3月期は前期比、4-6月期は今期比見通し)

	製造業	食料品	紙・パルプ・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2013年10-12月期	☁️	☀️	☁️	☁️	☁️	☁️	☀️	☀️
2014年1-3月期	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☀️
2014年4-6月期	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️

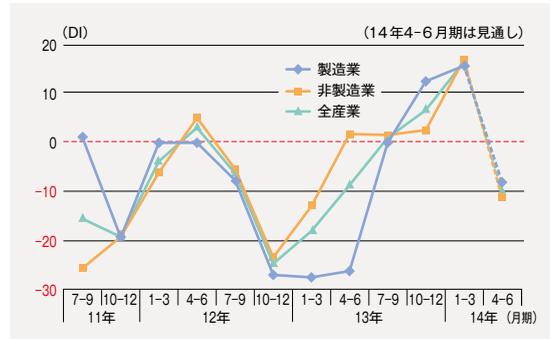
## 2 売上動向

今期まではDI上昇も、来期は一転して大幅に低下の見込み

2014年1-3月期の全産業の売上動向DI(対前年同期比)は16.6(前期6.7)と5期連続で上昇した。製造業では、食料品で前期比大幅に低下したが、パルプ・紙・紙加工品などで上昇が進んだため、全体でも15.8(同12.6)と引き続き上昇した。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所は若干低下となったが、その他小売・サービス業等、建設業でDIがさらに改善したため、全体で17.1(同2.6)と大幅に上昇した。

2014年4-6月期の予想DIは、全産業で-10.0、業種別でも製造業で-8.1、非製造業で-11.2といずれも今

期比20ポイント以上の大幅な低下が見込まれている。



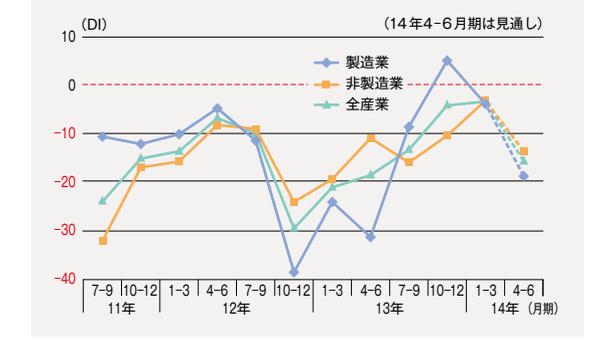
## 3 利益動向

今期DIはやや改善も、来期は大幅な低下を予想

2014年1-3月期の全産業の利益動向DI(対前年同期比)は-3.5(前期-4.3)と前期比やや改善された。製造業では、食料品、金属製品、一般機械器具でいずれも大幅に低下したため、全体では-4.0(同4.9)と再びマイナス水準となった。一方、非製造業ではその他小売・サービス業等をはじめとして、全体でも-3.3(前期-10.5)と上昇が続いており、製造業とは対照的な動きとなっている。

2014年4-6月期(見通し)の予想DIは、全産業で-15.7、うち製造業で-18.8、非製造業で-13.7とそれ

ぞれ今期比大幅な低下が予想され、先行きへの見通しは厳しい。



## 4 経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」の比率が50%を下回る

「受注・売上の停滞・減少」とする回答が再び増加し、全体の50%を上回った。また、「原材料・仕入れ商品の値上がり」が製造業や卸・小売・サービス業で増

加し、比率では「過当競争・製品安」を上回っている。ただし、建設業では「過当競争・製品安」の回答がもっとも多い。

(単位:社、%)

	13年7-9月期		13年10-12月期		14年1-3月期		順位変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	150	51.4	125	49.0	137	53.9	→
2. 原材料・仕入れ商品の値上がり	102	34.9	98	38.4	106	41.7	↑
3. 過当競争・製品安	116	39.7	104	40.8	96	37.8	↓
4. 人材の育成	107	36.6	89	34.9	83	32.7	→
5. 従業員の高齢化	69	23.6	63	24.7	64	25.2	→
6. その他経費の増加	64	21.9	50	19.6	53	20.9	→
7. 人件費の増加	41	14.0	48	18.8	48	18.9	→
8. 生産・販売能力の不足	56	19.2	45	17.6	44	17.3	→

**調査の概要**  
 1. 調査目的 / 静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握  
 2. 調査対象企業 / 静岡県東部地域に立地する企業618社 回答数254(回答率41.1%)  
 3. 調査方法 / 当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査  
 4. 調査対象期間 / 実績:2014年1-3月期 見通し:2014年4-6月期  
 5. 調査時点 / 2014年2-3月

DI:ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

\*この他、今回は従業員の賃金水準等上げについても調査しています。調査結果は弊所ウェブサイト(<http://www.srgi.or.jp>)をご覧ください。